

## 無痛分娩のご案内

当院では24時間対応で無痛分娩を実施しております。(2024年1月1日より開始)

無痛分娩は、以下の2通りの方法で実施しております。

① **計画無痛分娩** (経産婦さんに多く実施しています)

日時をあらかじめ決定し陣痛促進剤を使用して陣痛を起こしてから麻酔を開始する分娩方法です。入院時期は37週以降の診察で決定します。

この場合、医療器具を使用して子宮口を拡げる必要があります。

また陣痛促進剤に反応せず当日に分娩に至らない場合もございます。翌日か別日に予定を組み直します。

② **自然陣痛発来時無痛分娩** (初産婦さんに多く実施しています)

自然に陣痛が起きて、分娩が進んできた時点で麻酔を開始します。

※陣痛開始後、急遽無痛分娩への切り替えを希望された場合にも、可能な限り対応させていただきます。

### 無痛分娩を選択する上でご理解いただきたいこと

- ・無痛分娩希望の方は、24週までのいずれかの妊婦健診時に受付にお申し出ください。  
外来医師より無痛分娩について説明させていただいた上で無痛同意書をお渡しします。  
同意書の提出は26週までに必ずお願いいたします。

その後30~34週ごろに、助産師の主催する無痛学級または助産師外来を受講していただきます。

合併症をお持ちの方や、麻酔についてご質問がある方は、24週ごろまでに麻酔科医の診察を受けることをお勧めします。予約方法は受付窓口までお尋ねください。

- ・①②どちらの方法で実施するかは、医師の診察を受けたうえで決定していきます。
- ・①②のどちらの方法で出産した場合も、入院日数やその他の処置によって費用が加算されますのでご了承ください。

※26週までに同意書を出されていない方、無痛学級または助産師外来未受講の方で、陣痛開始後、急遽無痛分娩への切り替えを希望された方は、別途費用がかかります。

## 無痛分娩の方法

当院は硬膜外麻酔による無痛分娩を行っております。必要に応じて脊髄くも膜下麻酔を併用します。

硬膜外麻酔とは、背中の腰のあたりから細いチューブ（硬膜外カテーテル）を挿入し、挿入されたカテーテルから少量ずつ局所麻酔薬を注入する方法です。分娩進行の妨げとならないよう、低濃度の局所麻酔薬を使用します。

麻酔の効果には個人差があり、分娩の進行の段階によっても痛みの程度が変化していきます。完全に痛みをとるのではなく、耐えられる痛みをコントロールすることを目指します。効果が不十分と感じる時は担当スタッフにご相談ください。

硬膜外カテーテルから薬を注入する機械には、ご自身で押していただくボタンがあり、痛みを感じる時に押すと、薬が追加で注入されます。追加でボタンを押さなくても、機械からは定期的に薬が注入されていますので、ご安心ください。

ボタンは何回押しても安全な量までしか入らないように機械がコントロールしていますので、痛い時は遠慮なく押してください。

ボタンを押しても麻酔が効きにくい、もしくは麻酔が効いていないと感じた場合は、カテーテルの位置の調整や再挿入を行う場合があります。また時間帯によっては薬やカテーテルの調整が難しいこともあります。

硬膜外麻酔を開始後に、すぐに分娩に至らない場合でも、機械による自動注入とご自身で押すボタンで痛みのコントロールを行います。

急速な分娩進行が認められた場合は、骨盤痛などの痛みが増加する場合があります、麻酔の効果が十分でない場合があります。

陣痛が無くなってしまった場合は麻酔を中止し、陣痛が再来したら麻酔を再開します。

## 計画無痛分娩入院～分娩までの流れと過ごし方

### ① 入院からの流れ

- ・ 前日 15 時入院（状況によっては当日入院もあります）
- ・ CTG モニター・内診後、必要時ミニメトロ（小さい水風船）を挿入します
- ・ 計画無痛当日 7:00 から CTG モニター開始、血管確保、診察
- ・ 陣痛誘発剤投与開始（内診や陣痛の有無で使用を判断）
- ・ 痛みの状態をみながら硬膜外カテーテル挿入
- ・ 陣痛が始まって痛みが強くなってきたら、麻酔を開始します
- ・ 以降は徐々に陣痛誘発剤を増量し、痛みの状況に合わせて麻酔を追加していきます。
- ・ 陣痛誘発剤の使用は、有効陣痛でない場合夕方終了します。
- ・ 当日の分娩を目指していますが、進行状況によっては数日かかることがあります。

## ②無痛分娩中の過ごし方

- ・無痛分娩中は絶食です。飲水はできますが、お茶・お水・スポーツドリンクのみ可能です。病院からも、ゼリー飲料などの無痛食を提供します。
- ・麻酔開始後は、自分で歩く事ができません。排尿は2～3時間おきに導尿、もしくは尿カテーテルを留置します。
- ・お母さんと赤ちゃんの状態観察のため、血圧計や心電図・CTGモニターを装着したままの状態となります。
- ・皮膚トラブルを予防するため、こまめに体の向きを変えます。

## ③麻酔するときの姿勢

図5A 横向きに寝て背中から麻酔をする時の姿勢



図5B 座って背中から麻酔をする時の姿勢



©日本産科麻酔学会

## 自然陣痛発来時無痛分娩の入院の流れ

初産の方は陣痛が7～8分間隔になったら、経産の方は陣痛が来たらご連絡ください。陣痛がなくても、破水をした場合は入院になります。

内診所見、陣痛の程度、ご本人の痛みの程度を考慮して、麻酔開始時期が決まります。破水等がなければ、シャワーを浴びてから来院していただいても結構です。

背中に麻酔のカテーテルが入ると、分娩が終了するまで入浴をすることができません。麻酔開始後は絶食となります。陣痛が開始した場合は、麻酔開始前でも食事を控えていただくこともございます。

麻酔開始後の過ごし方は、計画無痛分娩の場合と同じです。

麻酔開始後に陣痛が弱くなってしまった場合は、陣痛促進剤を使用することがあります。

## 初産婦無痛分娩について

- ・基本的に計画無痛分娩は行いません。
- ・予定日超過や子宮口の熟化が不十分な場合は、計画無痛分娩になる場合があります。
- ・分娩のための前処置や分娩進行状況により、入院日数が数日多くなる場合があります。

## お願い

無痛分娩を少しでもお考えの方は、妊婦健診時に早めに医師にご相談ください。無痛分娩の同意書は、事前の提出をお願いしています。まだ決めかねている方も、事前に提出してください。その際にまだ検討中である旨をお伝えください。分娩進行中に急遽希望することもできますが、説明や準備のために麻酔開始までに時間がかかってしまいます。同意書を提出しても、無痛分娩を受けるかどうかは出産時にご本人に決めていただきます。無痛分娩を少しでも選択肢として考えている方は、事前に説明を受け、準備をしていただくようお願い致します。

